

# 基本理念評価について

## ～ 現総合計画の検証作業 ～

1.基本理念評価の実施目的	・ ・ ・ ・ ・ 2
2.計画骨子策定までの流れ	・ ・ ・ ・ ・ 3
3.評価の対象	・ ・ ・ ・ ・ 4
4.基本理念評価の手順	・ ・ ・ ・ ・ 5
5.政策目標の評価シート（部で作成）	・ 6
6.基本理念の評価シート（領域で作成）	10
7.課題の考え方	・ ・ ・ ・ 12
8.評価の視点	・ ・ ・ ・ 13
9.作業スケジュール	・ ・ ・ ・ 14

# 1.基本理念評価の実施目的

---

## ①次期総合計画策定のため、現状の課題を整理

- 現計画の目標達成に向けた取組の進捗状況の把握及び分析、評価
- 残された課題、今後優先的に取り組む課題を整理

## ②次期総合計画の計画期間を想定した将来予測

- 次の10年を想定し、発生し得る課題を検討する

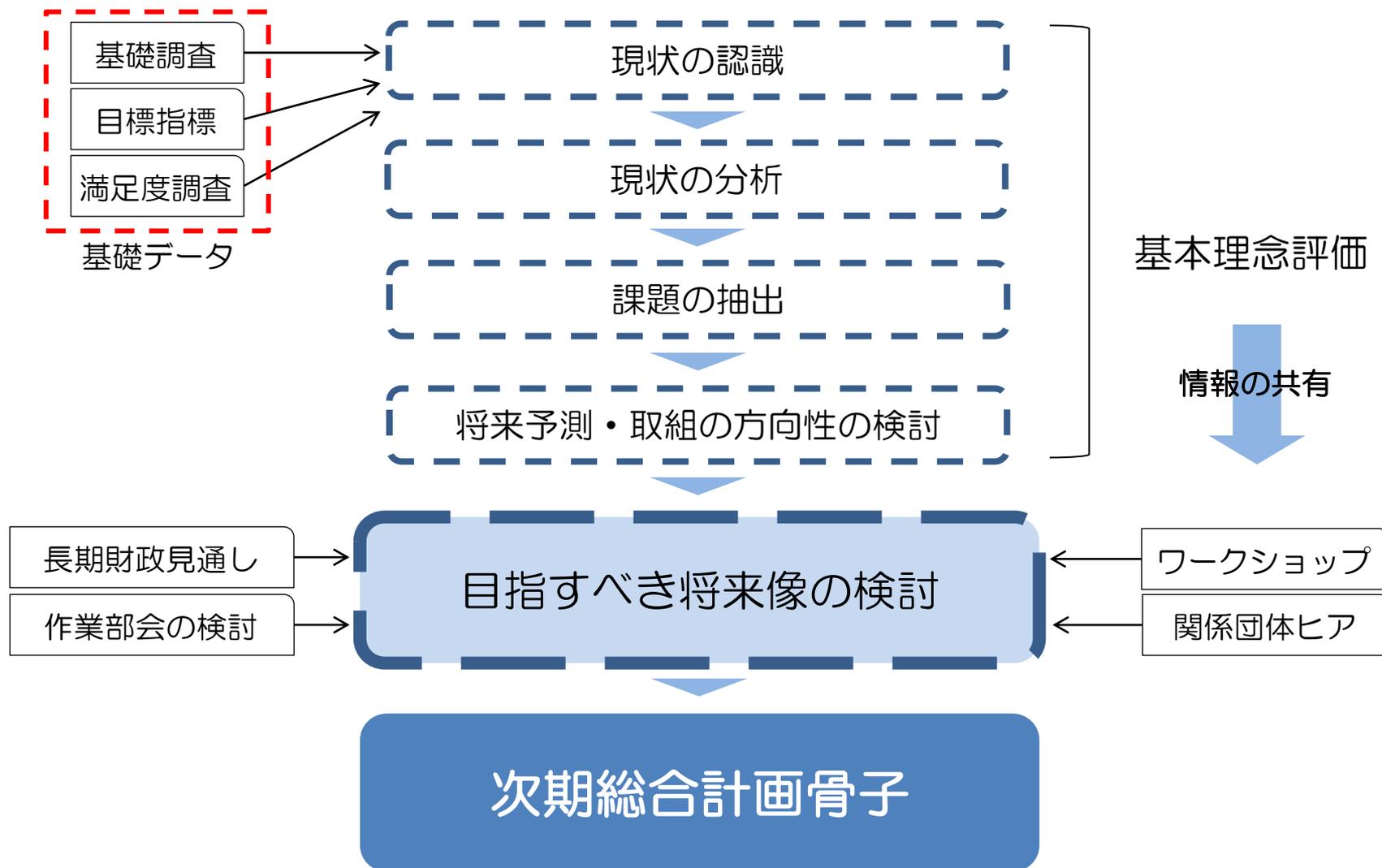
成果や課題を明らかにし、次期総合計画の重点政策を検討

## ③市民との情報共有のための基礎資料

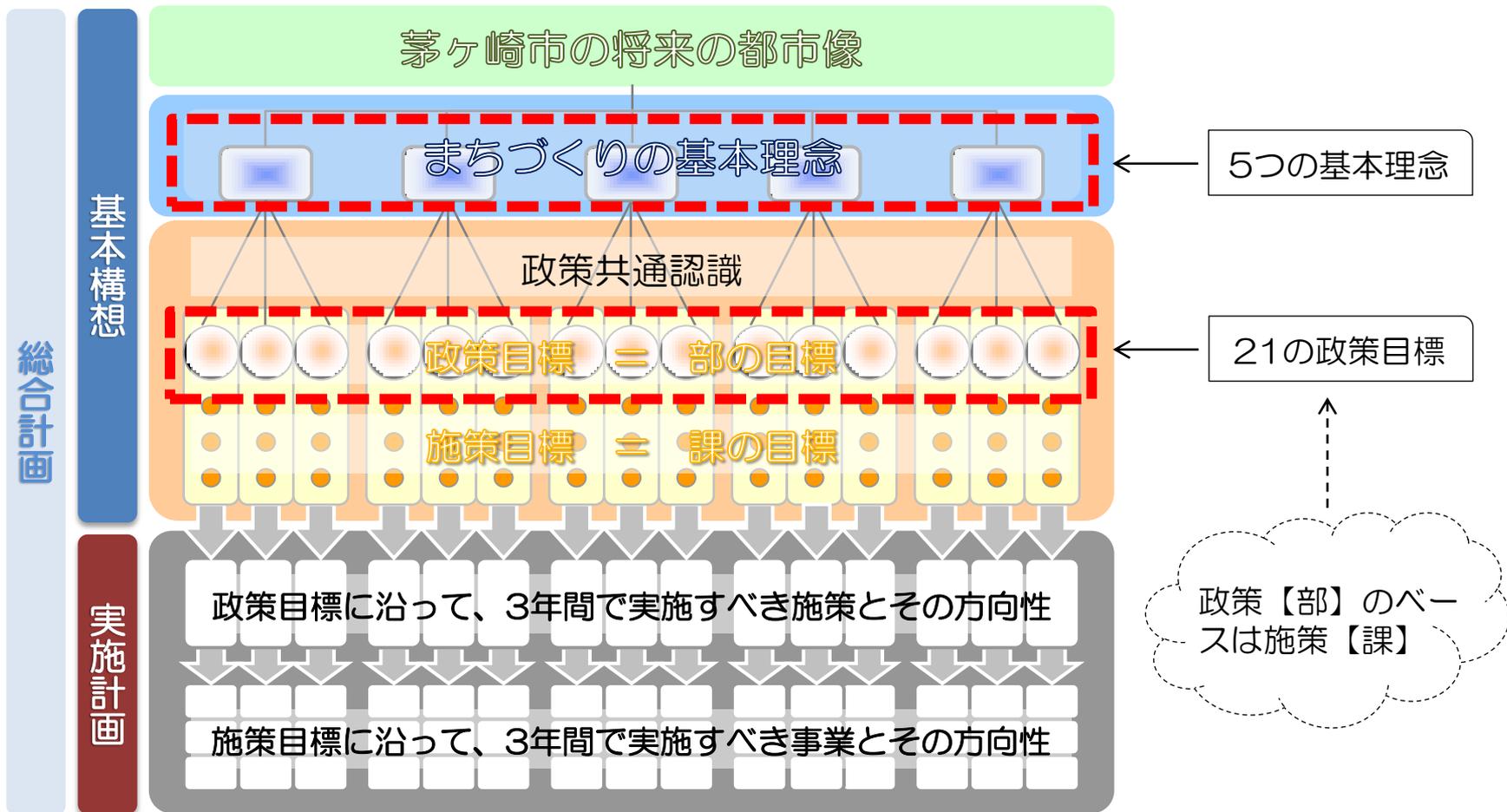
- これまでの成果や課題を明らかにし、情報を共有する

情報を共有することで、建設的な議論に繋げる

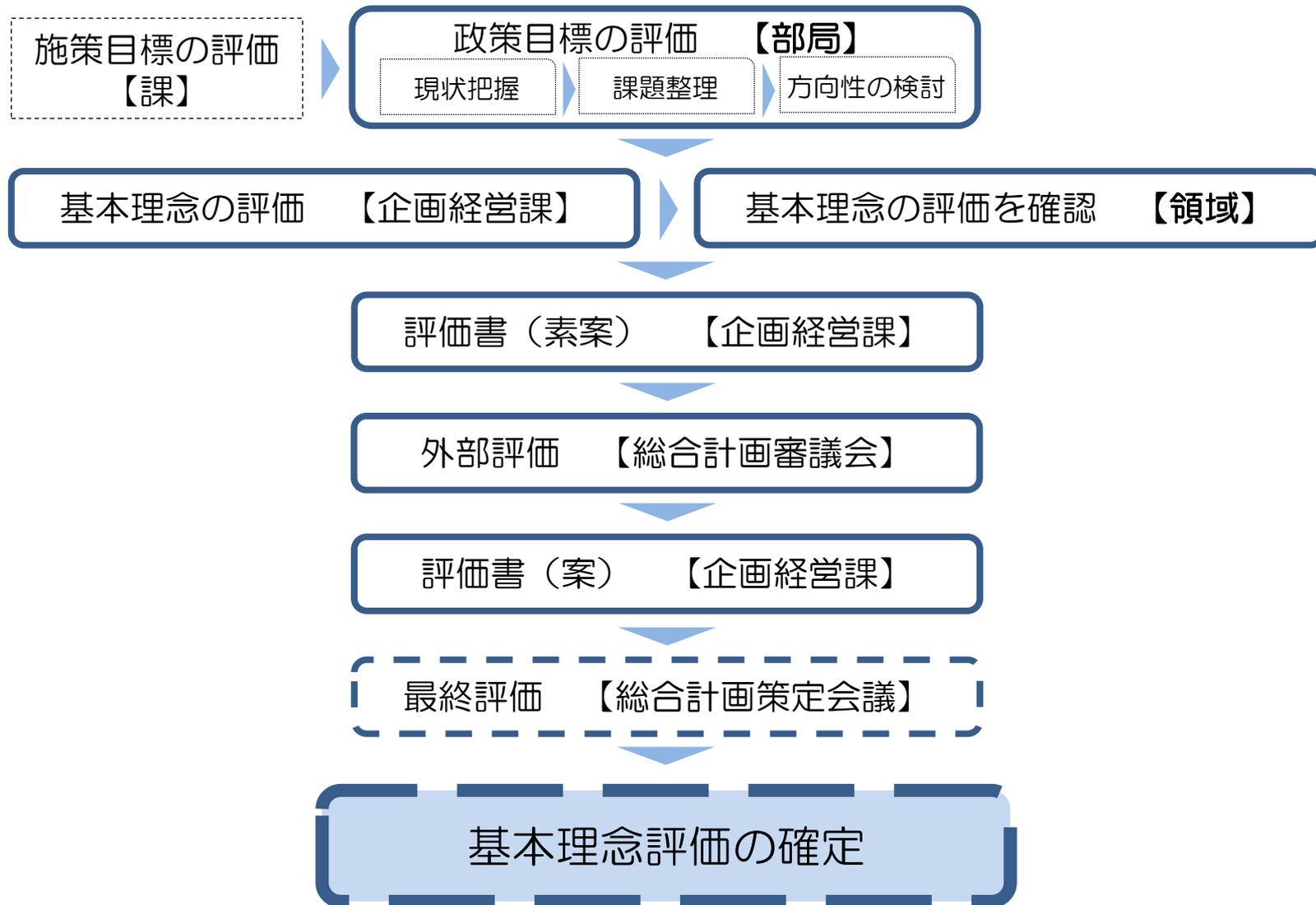
# 2.計画骨子策定までの流れ



# 3. 評価の対象



# 4.基本理念評価の手順



# 5.政策目標の評価シート（部で作成）

基本理念評価シート【政策目標】（案）

サンプル

PLAN

## 1.基礎情報

基本理念	1 学び合い育ち合う みんなの笑顔がきらめく ひとつづくり	評価担当部局
政策目標	1 次世代の成長を喜びあえるまち	こども育成部
目指すべき将来像	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安心して子育てができるサポート体制ができている</li> <li>・子育てを支え合える地域社会の仕組みができている</li> <li>・子どもを産み育てやすい環境が整い、子どもの総数が増えている</li> <li>・多様なニーズに合わせた保育サービスが提供されている</li> </ul>	

## 1.政策の基礎情報

- ・茅ヶ崎市総合計画基本構想に定めている「基本理念」「政策目標」「目指すべき将来像」及びシート作成部局を記載しています。

## 2.これまでの投入資源

（単位：百万円）

一般会計	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	合計
決算額	12,209	10,963	11,152	11,725	12,878	13,451	14,063	86,441
事業費	10,797	9,874	10,062	10,611	11,713	12,272	12,884	78,213
職員給与費（常勤+再任用）	1,412	1,089	1,090	1,114	1,165	1,179	1,179	8,228
従事職員数	320	319	319	294	305	314	314	2,185
常勤職員	131	133	133	135	143	149	149	973
再任用職員	0	0	0	0	0	1	1	2
その他	189	186	186	159	162	164	164	1,210

## 2.これまでの投入資源

- ・平成23年度から29年度までの各部局の決算額及び従事職員数を記載しています。

## 3.目指すべき将来像の実現に向けたこれまでの主な取組

年度	実施計画事業名	事業概要
23年度	待機児童解消のための公設による保育園整備拡充	中海岸・共恵地区に、公設民営の保育園（定員120名）を建設し、待機児童の解消を図る。（平成24年4月開設）
	一時預かり事業	緊急・一時的な保育が必要な児童に対して、一時預かり事業を実施する保育園等に当該事業の運営を補助し、保護者の負担軽減を図る。
	家庭児童相談事業	家庭児童相談室を設置し、相談員による相談指導業務を実施し、家庭における適正な児童養育など、家庭児童相談の向上を図る。
24年度	子育てポータルサイト事業（協働推進事業・市民提案型）	インターネットを活用した情報発信を協働推進事業で実施し、小学校入学前の子を持つ親等の子育てを支援する。
	中海岸保育園管理運営事業	市内初の指定管理者制度による公設民営の保育園を開設し、病後児保育や産休明け保育等、多様な保育ニーズに応じたサービスを提供する。
25年度	療育相談事業	療育相談員・保育士を増員し、増加する子育てに関する相談に対応するとともに、関係機関との連携を通して子育てを支援する。
	小児医療費助成事業	子どもの通院及び入院に係る医療費を助成し、子育てにかかる経済的負担軽減を図る。（H25.10月より通院に係る助成を小学2年生まで拡大）
	待機児童解消のための民間保育園整備拡充	民間保育所等の施設整備費を助成し、待機児童の解消と保育環境の向上を図る。（平成26年度に新たに2園の民間保育園の開設を目指す）
26年度	子ども・子育て新制度準備事業	「（仮称）茅ヶ崎市子ども子育て会議」を設置するとともに、ニーズ調査等を行い、子ども子育て支援法の施行に向けた準備を進める。
	待機児童解消のための民間保育園整備拡充	待機児童の多い地域において、公募にて保育園の新設を行うとともに、認可外保育施設の認可化を進める。
27年度	家庭的保育事業	家庭的保育室を新規開設し、待機児童の解消および多様な保育ニーズへの対応を図る。
	小児医療費助成事業	子どもの通院及び入院に係る医療費を助成し、子育てにかかる経済的負担軽減を図る。（H27.10月より通院に係る助成を小学3年生まで拡大）
28年度	（仮称）香川駅前子育て支援センター事業	市内か所目の子育て支援センターを香川駅前開設し、北部地域を中心に子育て家庭の利便性の向上を図る。（平成27年10月開設）
	香川駅前子育て支援センター事業	従来の機能に加え、利用者支援専門員を配置し、利用者のニーズを把握したうえで、適切な施設や事業等を円滑に利用できるよう支援する。
29年度	待機児童解消のための保育園等の整備拡充	小規模保育事業の整備を進め、約8割を占める3歳未満の待機児童の解消を図る。（平成29年8月に1園を開設）
	待機児童解消のための保育園等の整備拡充	平成30年4月の開園を目指し、公募による小規模保育事業の整備を進め、待機児童の解消を図る。
29年度	小児医療費助成事業	子どもの通院及び入院に係る医療費を助成し、子育てにかかる経済的負担軽減を図る。（H30.4月より通院に係る助成（一部負担）を小学6年生まで拡大）

## 3.目指すべき将来像の実現に向けたこれまでの主な取組

- ・目指すべき将来像の達成に向けて、上記コストにより、どのような取組を進めてきたかを明らかにするため、主な実施計画事業名とその事業概要を記述します。
- ・各年度に記載する事業は「課かい数×2事業」程度とします。
- ・各事業の成果等については後段の項目で記載することから、当該項目については、具体的な取組の内容を記述する程度とします。

DO

# 5.政策目標の評価シート (部で作成)

## 4. 政策指標による進捗状況の確認

No.	指標名及び実績の推移	考察
1	<p><b>安心して子育てが出来る環境である」と思う市民の割合</b></p> <p>現状値 42.10% (29年度) 目標値 50.00% (32年度)</p>	<p>・中間時点までは減少傾向で推移し、中間時点では基準値を下回ったが、新たな待機児童解消対策などにより平成29年度には基準値を少し上回った。 ・最終目標との乖離は大きい。待機児童対策の継続や小児医療費助成の対象年齢拡大など、事業を進める中で、最終目標値に近づこう努めていく。</p>
2	<p><b>保育園の待機児童数</b></p> <p>現状値 18人 (29年度) 目標値 0人 (32年度)</p>	<p>・平成27年度に待機児童を0人とすることを目標に取組を進めたが、入園希望が想定を上回る形で増加し、中間時点では目標達成に至らなかったが、新たな待機児童解消対策などにより29年度は18人まで減少した。 ・今後も待機児童の解消に向けて、多様な手法を活用し、取組を進めていく。</p>
3	<p><b>保育園の入園児童数</b></p> <p>現状値 3,798人 (29年度) 目標値 3,380人 (32年度)</p>	<p>・保育需要の増加に対応するため、保育園の定員を1,538人増したことから、平成29年度時点で当初の目標値を大きく上回っている。 ・保育園の整備等により、潜在的保育需要を喚起することから待機児童の解消には至っておらず、今後は定員増と併せて、保育コンシェルジュによる入園支援等を行い、待機児童解消を目指す。</p>
4	<p><b>合計特殊出生率</b></p> <p>現状値 (29年度) 目標値 全国平均以上 (32年度)</p>	<p>・未婚化、晩婚化の影響により、目標値の全国平均には届かない値で推移している。 ・平成26年度以降は改善の兆しは見られるが、目標とは大きな乖離が生じており、結婚から出産、育児までの切れのない、きめ細やかなサービスを提供する必要がある。 ・平成25年度については●●が要因となり、一時的に出生率が改善したと考えられる。</p>

## 4.政策指標による進捗状況の確認

- ・茅ヶ崎市総合計画基本構想に掲げている政策指標について「基準値」「実績値 (H23~H29)」「目標値」を記載しています。
- ・指標の達成状況やその背景を分析するとともに、今後の見込みについても記述します。

## 5. 市民意識の推移

No.	設問及び満足度の推移	考察
1	<p><b>安心して子育てができる環境</b></p> <p>※表示している数字は全体平均値</p>	<p>・全体としては中間時点では平成21年度の数値を下回ったが、新たな待機児童解消対策などにより29年度には改善傾向が見られた。 ・若年層とファミリー層では他階層に比べ満足度が低かった。特にファミリー層は減少傾向で推移していたが、中間時点以降は改善傾向が見られる。また、若年層についても大きな改善が見られる。</p>
2	<p><b>多様なニーズに合わせた保育サービス</b></p> <p>※表示している数字は全体平均値</p>	<p>・全体としては改善の傾向はみられるものの、当初の調査から満足度は低い値で推移している。 ・ファミリー層については、当初の調査から大きく満足度を下げており、若年層についてもほぼ横ばいで推移している。 ・今後は、子育て世代のニーズをよりの確に捉え、適切な対応(事業)について改めて検討する必要がある。</p>

## 5.市民意識の推移

- ・平成21年度から29年度までに実施した市民満足度調査における、満足度の推移について、全体平均及び年齢層別に掲載しています。
- ・全体の推移を分析するとともに、各政策におけるターゲットの年齢層についての市民意識の推移を分析します。

※「たいへん満足」を2点、「まあ満足」を1点、「どちらともいえない」を0点、「やや不満」を-1点、「たいへん不満」を-2点として算出した値を回答者数で除した点。

# 5.政策目標の評価シート（部で作成）

6. 現行総合計画での取組に関する考察		
No.	項目	考察
1	これまでの主な取組と成果	<p>●子育て支援体制の拡充 子育て世帯の働き方の変化等による家庭への負担を軽減し、安心して子育てができるよう、子育て支援センターを増設するとともに、ファミリーサポートセンターの活動件数を拡大するなど、支援体制を拡充した。</p> <p>●保育所定員の増強と待機児童数の改善 女性の社会進出等を背景に待機児童の問題が急速に深刻化し、保育所新設等により対応を進めてきた。定員が●●人拡充され、入園児童数は目標を達成するとともに、待機児童数も100人以上という状況から18人まで大幅に減少した。中間時点で大きく落ち込んだ子育て環境への満足度が改善傾向にあるのも、喫緊の課題であった待機児童の問題が大きく改善したことが影響していると考えられる。</p>
2	課題として残される事項	<p>●地域ぐるみの子育て支援環境の充実 ファミリーサポートセンターの活動内容や支援対象者に偏りが出ているため、活動内容の多様化や支援対象者の拡充を進め、支援の裾野を広げていくことが求められる。</p> <p>●待機児童の解消 待機児童の解消に向けた取組としては、施設整備と並行して既存施設の受入人数の変更等の対策を進めていくとともに、市内事業者やボランティア等、地域内の多様な主体との連携的取組などについても検討していく必要がある。</p> <p>●子どもを産み育てやすい環境整備 未婚化、晩婚化の進行により、全国的に出生率が低迷していると同様に、本市の出生率についても低迷している。母子保健指導事業や家庭児童相談事業等の推進により、出生率に改善が見えるものの、平成22年度の目標達成は厳しいものと考えられる。今後も多様な主体間の連携と多角的なアプローチにより、抜けない子育てまで切れ目のないきめ細やかな支援を継続する必要がある。</p>
3	指標及び数値目標の妥当性について	待機児童対策について一定の成果が上がっている中で、今後は、地域の子育て環境の質の向上という観点から、子育てを支え合える地域社会の仕組みの状況を捉える指標（子育てボランティアの人数や利用者数等）の設定についても検討していく必要がある。

CHECK

## 6. 現行総合計画での取組に関する考察

- 平成23年度から29年度までの7年間に、目指すべき将来像の実現に向けて、どの様に取り組み、課題の解決を図ってきたかを記述します。
- 項番の2～5において明らかにした実績等を基に、多角的な分析を行い、これまでの取組が効果的・効率的に展開されていたかを記述します。
- 23年度から29年度まで及び、30年度から32年度に予定している取組を実施した結果、課題として残される事項について、解決に至らない理由を外的要因等も含め記載します。
- 数値目標を達成できたか否かではなく、「数値目標の達成＝政策目標の実現」となる様な指標及び数値目標の設定となっていたか、指標に関する分析を記載します。

7. 新たなニーズ・課題の考察		
項目	考察	
新たなニーズ・課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>女性の社会進出や格差の拡大などの社会的背景やいじめやひきこもりなどの子どもたちを取り巻く問題など、子育て環境が複雑化している中で、子育て支援は就労、教育、地域の見守りなど多角的に取組んでいく必要があり、家庭や学校、地域、企業など多様な主体間の連携と多角的なアプローチにより、抜けない子育て支援体制を構築していくことが求められる。</li> <li>保育所の量的充足が実現している一方、保育サービスの質の向上が求められている。</li> </ul>	

## 7. 新たなニーズ・課題の考察

- 次期総合計画の計画期間を想定し、社会情勢や制度変更等、本市を取り巻く環境の変化により、新たに対応が求められる課題について記述します。

8. これからの取組に関する考察		
項目	考察	
6及び7で課題とされた事項を踏まえた今後の取組の方向性	<p>●切れ目・抜け目のない子育て支援体制の強化とサービスの質的向上 複雑化する子育て環境に対し、支援を必要とする家庭や子どもたちに必要な支援が行き届くよう、子育て支援センター、ファミリーサポートセンター、家庭児童相談室、市立病院、見守りボランティア等と連携し、情報の共有や総合的なサポート体制を構築する。</p> <p>●保育の質的向上 待機児童の解消に向けて、量的な拡充に重きを置いてきたが、並行して保育サービスの質的向上についても取り組んでいく必要があり、保育士の労働環境等にも配慮しつつ、継続的な保育サービスの向上に努めていく必要がある。</p>	

ACTION

## 8. これからの取組に関する考察

- 課題として残されること、今後新たに課題となり得ることに対して、どの様な方向性を持って取組を進めていくか、それぞれの部局における展望をしっかりと見定めたくうえで、今後の政策の展開について記述します。
- 庁内横断的な取組が想定される場合は、あわせて記述します。

# 5.政策目標の評価シート（部で作成）

・領域での議論に繋げるため、より大局的な視点での考察を各部局で実施

基本理念評価シート【各部局における基本理念の振り返り】（案）

1.基礎情報	
基本理念	1 学び合い育ち合う みんなの笑顔がきらめく ひとづくり <span style="float:right">こども育成部</span>
政策展開の基本的指針	① 茅ヶ崎に暮らし、誇りと愛着を持ち、明日の茅ヶ崎を支える人育てることに力を置いて、子どもを産み育てること、学齢期の教育、生涯を通じた学習や文化活動、多くの市民が健康づくりに取り組み、さまざまなスポーツに参加できる環境づくりを、地域ぐるみで総合的に進めます。
	② 子どもを産み育てやすい環境を整えとともに、乳幼児期の過ごし方の重要性を周知・啓発しながら、子育てが初めての人も安心して子育てができる支援体制や子育て家庭のライフスタイルに合わせた保育サービスの提供、地域社会全体が子育てに関わる環境を整えます。
	③ 子どもたちを取り巻く、家庭、地域、保育園、幼稚園、学校、事業者の連携・協力によって、子育てに関わる時間が持て、子どもたちが元気に育ち、意欲的に学び、大人も成長しながら、次代を担う人が育つ環境を整えます。
	④ 性別、年齢、国籍、障害の有無などを問わず、あらゆる人が多様な活動に参画し、交流する、はぐくまれた市民の力が十分に生き、一人一人が自分らしく活躍できる地域社会を育てます。
基本理念に関する現状・課題・方向性	<input type="checkbox"/> 子どもを産み育てやすい環境づくり <span style="margin-left: 100px;"><input type="checkbox"/> 次世代育成の支援</span> <input type="checkbox"/> 待機児童の解消 <span style="margin-left: 100px;"><input type="checkbox"/> 文化、芸術、スポーツ活動の活性化</span> <input type="checkbox"/> 教育環境と教育行政 <span style="margin-left: 100px;"><input type="checkbox"/> 男女共同参画社会の実現</span> <input type="checkbox"/> 学校教育の充実 <span style="margin-left: 100px;"><input type="checkbox"/> 多様な文化の共存・交流</span> <input type="checkbox"/> 学校施設の大規模改修
関連部局	こども育成部、教育推進部、教育総務部、文化生涯学習部

## 1.基礎情報

- ・茅ヶ崎市総合計画基本構想に定めている「基本理念」「政策展開の基本的指針」「基本理念に関する現状・課題・方向性」及び基本理念を構成する部局を記載しています。

2.基本理念(政策展開の基本的指針)に対する各部局の対応状況

項目	考察
基本的指針①	・待機児童対策を進め、子どもを産み育てる環境の充実を図った。
基本的指針②	・ライフスタイルに合わせた保育サービスの提供として、延長保育、特定保育、一時預かり、休日保育などの充実を図った。
基本的指針③	・ファミリーサポートセンター事業の会員数の増加、活動内容の充実を図り、地域での子育て相互援助活動の活性化を図った。活動にあたっては、●●、●●と連携した講習会の開催や●●、●●と連携した子育て支援活動を実施した。
基本的指針④	・外国籍の家庭に対するファミリーサポートセンター事業への参加促進等を図り、国籍に関わらず、安心して子育てができる環境づくりを図った。サポートを希望する外国籍の家庭の把握にあたっては、市民課の窓口業務と連携し事業の情報提供やニーズ確認等を実施した。

## 2.基本理念(政策展開の基本的指針)に対する各部局の対応状況

- ・基本理念で設定した政策展開の基本的指針に対して、各部局として対応、貢献できたこと、さらに強化していくべきことについて記述します。
- ・考察にあたっては「基本理念に関する現状・課題・方向性」の内容等を踏まえることとします。
- ・各部局としての考察だけでなく、庁内横断的に取り組んできたことや、今後取り組んでいくべきことについても記述します。

※部局に関わりのない指針については記入しません。

# 6.基本理念の評価シート（企画で作成）

基本理念評価シート【基本理念】（案）

サンプル

基本理念	1 学び合い育ち合う みんなの実顔がきらめく ひとづくり
政策展開の基本的指針	① 茅ヶ崎に暮らし、誇りと愛着を持ち、明日の茅ヶ崎を支える人を育てることに力を置いて、子どもを産み育てること、学齢期の教育、生涯を通じた学習や文化活動、多くの市民が健康づくりに取り組み、さまざまなスポーツに参加できる環境づくりを、地域ぐるみで総合的に進めます。
	② 子どもを産み育てやすい環境を整えるとともに、乳幼児期の過ごし方の重要性を周知・啓発しながら、子育てが初めての人も安心して子育てができる支援体制や子育て家庭のライフスタイルに合わせた保育サービスの提供、地域社会全体が子育てに関わる環境を整えます。
	③ 子どもたちを取り巻く、家庭、地域、保育園、幼稚園、学校、事業者の連携・協力によって、子育てに関わる時間が持て、子どもたちが元気に育ち、意欲的に学び、大人も成長しながら、次代を担う人が育つ環境を整えます。
	④ 性別、年齢、国籍、障害の有無などを問わず、あらゆる人が多様な活動に参加し、交流する、はぐくまれた市民の力が十分に生き、一人一人が自分らしく活躍できる地域社会を育てます。
基本理念に関する現状・課題・方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>○子どもを産み育てやすい環境づくり</li> <li>○待機児童の解消</li> <li>○教育環境と教育行政</li> <li>○学校教育の充実</li> <li>○学校施設の大規模改修</li> <li>○次世代育成の支援</li> <li>○文化、芸術、スポーツ活動の活性化</li> <li>○男女共同参画社会の実現</li> <li>○多様な文化の共存・交流</li> </ul>
関連部署	こども育成部、教育推進部、教育総務部、文化生涯学習部

## 基礎情報

- 茅ヶ崎市総合計画基本構想に定めている「基本理念」「政策展開の基本的指針」「基本理念に関する現状・課題・方向性」及び基本理念を構成する部局を記載しています。

1. これまでの投入資源 （単位：百万円）

一般会計	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	合計
決算額	17,494	17,499	17,445	18,102	18,422	20,676	24,126	133,764
事業費	14,802	15,183	15,129	15,874	16,074	18,316	21,766	117,144
職員給与費（常勤+再任用）	2,692	2,316	2,316	2,228	2,348	2,360	2,360	16,620
従事職員数	710	715	719	701	716	719	719	4,999
常勤職員	267	265	264	272	283	291	291	1,933
再任用職員	0	0	0	2	1	3	3	9
その他	443	450	455	427	432	425	425	3,057

## 1. これまでの投入資源

- 平成23年度から29年度までの各領域の決算額及び従事職員数を記載しています。

2. 政策指標の達成状況

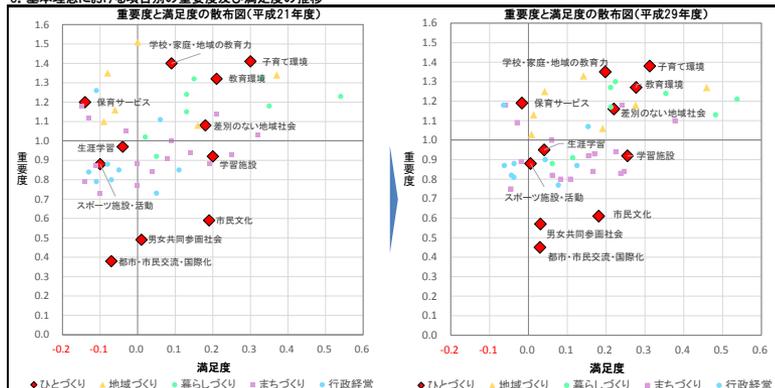
政策指標名	基準値 (H21)	中間実績 (H27)	直近実績 (H29)	目標値 (H32)
「安心して子育てができる環境である」と思う市民の割合	39.2%	36.7%	42.1%	50.0%
保育園等の入園児童数（上段）と待機児童数（下段）	2,085人 143人	3,084人 115人	3,798人 18人	3,380人 0人
合計特殊出生率	1.30人	1.35人	1.39人 (H28)	全国平均以上
児童・生徒の「生きる力」（種々な学力、豊かな人間性、確かな体）がはぐくまれていると思う市民（上段）及び保護者（下段）の割合	23.8%	26.6%	30.4%	50.0%
児童・生徒の体力	別紙参照	別紙参照	別紙参照	全国平均以上
公民館の利用率	51.6%	50.3%	51.3% (H28)	65.0%
図書館資料の市民平均貸出冊数	4.2冊	4.6冊	4.5冊 (H28)	5.0冊
大規模改修事業（上段）と環境改善事業（トイレ改修率）（下段）の進捗率	0.0%	33.3%	40.0% (H28)	100%
学校内（上段）・登下校時（下段）の事故報告件数	48.2%	65.9%	65.9% (H28)	80.0%
児童一人当たりの給食食べ残し量	41件 6件	51件 4件	29件 (H28) 6件 (H28)	40件以内 6件以内
児童一人当たりの給食食べ残し量	4.0kg	2.8kg	1.8kg (H28)	3.5kg
講座・イベントの定員に対する受講希望割合	78.2%	53.0%	79.0% (H28)	100%
文化芸術事業参加者数	497,519人	476,611人	425,489人 (H28)	550,000人
スポーツ実施率	32.5%	48.3%	52.2%	50.0%
「男女共同参画が実現している」と思う市民の割合	9.5%	8.4%	12.0%	30.0%

## 2. 政策指標の達成状況

- 茅ヶ崎市総合計画基本構想に掲げている政策指標について「基準値」「中間実績（H27）」「直近実績（H29）」「目標値（H32）」を記載しています。

# 6.基本理念の評価シート (企画で作成)

## 3. 基本理念における項目別の重要度及び満足度の推移



**<平成21年度から平成29年度への推移の分析>**  
 満足度については、全ての項目について満足度は向上したが「保育サービス」は平成21年度と比較して大幅に向上したものの満足度はマイナスに留まっている。重要度については、多少の前後はあるものの大きな変化は見られない。

**<今後の方向性>**  
 重要度が高いにも関わらず満足度がマイナスとなっている「保育サービス」については引き続き優先的に取り組んでいく必要がある。また、重要度は比較的高いが満足度は低くなっている「生涯学習」、「スポーツ施設・活動」については、満足度が低い理由を分析し、対応を工夫していく必要がある。

## 3.基本理念における項目別の重要度及び満足度の推移

- 平成21年度から29年度までに実施した市民満足度調査における、各領域の取組に関連する項目の推移を掲載しています。
- 基本理念の各項目における市民意識及びその推移を分析します。
- 次期総合計画期間は、少子高齢化の更なる進展や人口減少期に入ることにより、財政状況が更に厳しくなることが予測されることから、領域内においての取組についての優先度等を検証し、メリハリのある計画策定に繋がります。

## 4. 基本理念に対する評価結果

**評価結果**

核家族化の進展や、子育て世代の働き方などが変化するなかで、家庭の負担を軽減し、安心して子育てができるよう、子育て支援センターを増設するとともに、ファミリーサポートセンターの活動件数を拡大するなど、支援体制を拡充しました。また、待機児童解消に向けた取組として、保育園の新設等に取組んだ結果、入園児童数については、目標を上回る実績となった一方、中間目標の待機児童ゼロは達成できませんでしたが、平成29(2017)年4月の待機児童数は18人となり、待機児童ゼロに向けて着実に取組を進めています。本市の27(2015)年度の合計特殊出生率は1.35人と神奈川県平均を下回る結果となり、今後も、出産育児世代のニーズを的確に捉え、よりきめ細やかな母子保健・子育て支援サービスの充実を推進してまいります。

公民館の利用率は、目標に届かなかったものの、多様化するニーズ等を的確に捉え、学習機会の提供や情報発信を行う拠点として、今後も各施策に取組んでまいります。

教育環境の整備として、公共施設整備・再編計画に基づき、築30年を経過した小中学校を対象に、施設老朽化の防止と長寿命化を図る大規模改修事業を実施するとともに、良好な教育環境を維持するため、トイレの改修事業に取組んできました。トイレの改修は、進捗している一方で、大規模改修事業については、26(2014)年度までに浜須賀・柳島・松林・鶴嶺小学校の4校が完了したものの、27(2015)年度以降の整備に遅れが生じている状況となっています。今後は、学校施設の長寿命化、建替えなど再整備等の計画を策定する中で、検討を進めます。

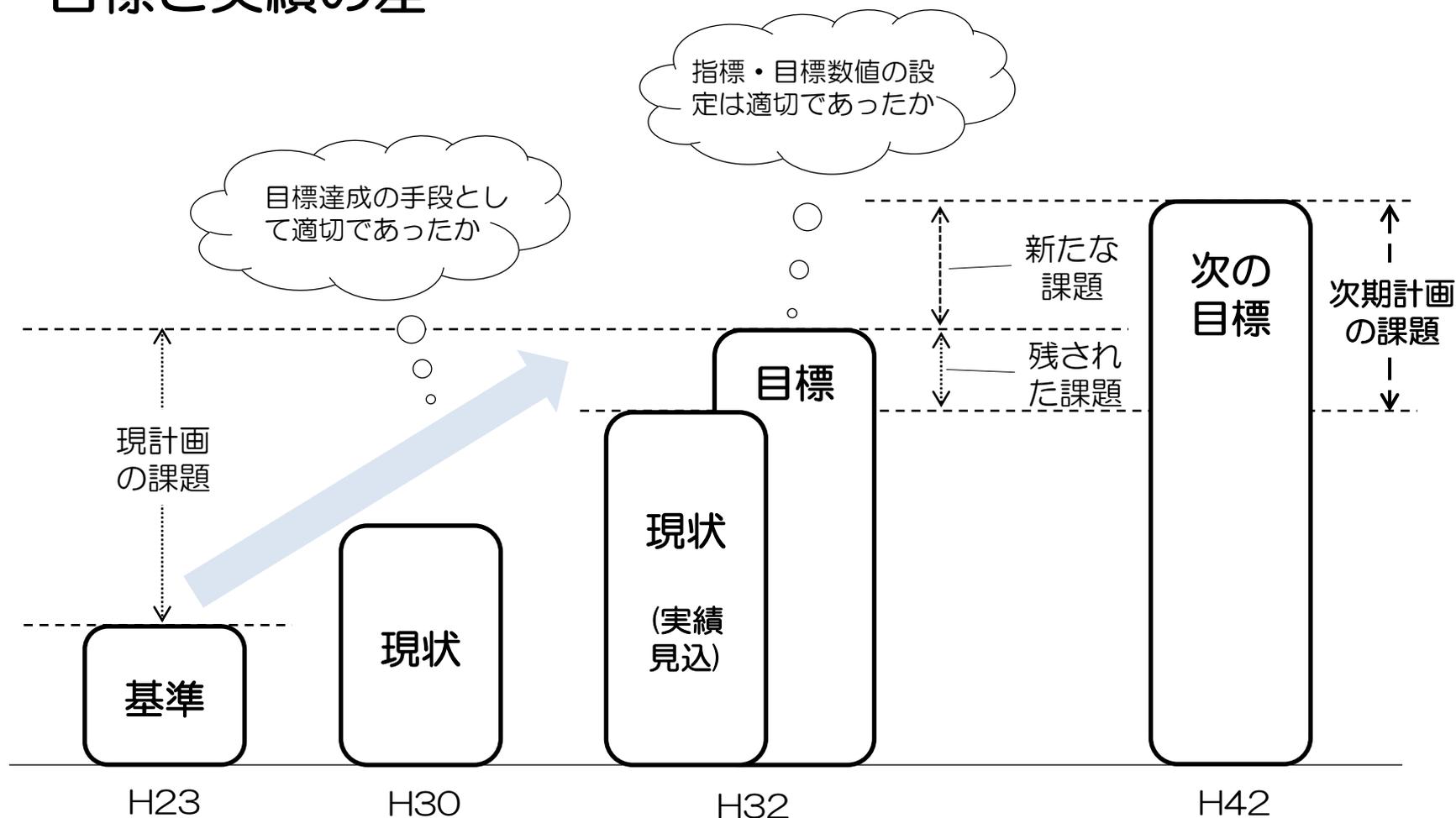
文化・芸術に親しみきっかけづくりとなるよう、絵画展、音楽、演劇など様々な文化芸術事業を進めてきました。27(2015)年度の実績は、近年において最も多い参加者数となったものの、目標の達成には至りませんでした。市民文化会館や美術館等により多くの市民が訪れ、より一層文化芸術に親しみでもらえるよう、今後も継続的に幅広い世代を対象とした取組を進めてまいります。また、男女共同参画の推進に向け、関係課との連携、協力を図り取組を進めます。

## 4.基本理念に対する評価結果

- 各部局で検討した「基本理念（政策展開の基本的指針）に対する各部局の対応状況」の内容や、平成28年度に実施した政策・施策評価における分析を基に、7年間の基本理念における取組を改めて分析します。

# 7.課題の考え方

## ・目標と実績の差



# 8. 評価の視点

## 評価シート

1. 基礎情報

2. これまでの投入資源

3. 目指すべき将来像の実現に向けたこれまでの主な取組

4. 政策指標による進捗状況の確認

5. 市民意識の推移

6. 現行総合計画での取組に関する考察

7. 新たなニーズ・課題の考察

8. これからの取組に関する考察

- 政策の目標（目指すべき将来像）を達成できているか、数値目標は達成できているか。
- 達成できていない場合、目標が達成できなかった原因（課題）として、どの様なことがあるか。
- 「数値目標の達成＝政策目標の実現」となる様な指標設定ができていたか。

- 市民ニーズを適切に捉え、対応できているか。
- 各部署のターゲットに取組の効果がみられるか。
- 市民ニーズをどの様に捉えるかも踏まえ、対応できていないもの（課題）は何か。

- 投入資源と指標及び市民意識の推移の関係、指標と市民意識の推移、社会情勢の変化等の外的要因等、これまでの取組を多角的に捉え、効果的・効率的であったか。
- 政策の目標（目指すべき将来像）を達成できていない場合、その原因（課題）として、どの様なことがあるか。
- 成果があがっていない場合、目標を達成するための手段（事業）は適切であったか。

- 人口減少や少子高齢化の進展によりどの様な影響が想定されるか。
- 今後、大きな制度改正等が予定されているか。
- その他、各項目での検討以外に課題はないか。

# 9.作業スケジュール

区分	5月	6月	7月	8月	9月
各部局	シート作成(政策目標) →				
政策領域		シート確認 (基本理念) →			
企画経営課		シート作成 (基本理念) →	評価書素案作成 →	評価書案作成 →	
策定会議 (幹事会含)				素案協議 →	確定 →
総合計画 審議会				外部評価 →	